

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策に取り組みながらの積極的な取り組みをとということで指導計画を作成。近年は、毎年少しずつ変わっていく取り組みの形に職員が臨機応変な対応を求められてきた。 ・園内研究にあげている「遊びや活動を通して人とつながる力を育てる」ことにポイントを置いて、子ども同士の関わりの機会を持ち、友達との関係を深めていく事を大切にしてきた。引き続き、継続して取り組んでいきたい。 ・保護者アンケート結果より、教育・保育の方針がわかりにくい事や、大切にしている取り組みが見えにくいという意見がでていた事を受け、コドモン等の機能を活かした発信も工夫し考えていきたい。
<p>健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍 3 年目となり、プールを実施。プールの際は、できる限りのソーシャルディスタンスと、職員のマスク装着を徹底し、コロナを含むその他の感染症もさほど流行せず、経過した。 ・薬剤師の指導により、保健室での薬の使用方法を見直し、薬を適正使用するように努めた。 ・花王（ビオレ）に来てもらい、プロの本格的な手洗い指導を受けることができた。ピンク色から色が変わる石鹸を使用することによって、手洗いへの関心を高めることができた。
<p>安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策として 2 重になっている玄関の門扉の内側の扉が破損したが、昨今の社会状況により物資不足により工事が進まない期間が発生した。その間、職員が門扉周辺に立ち、保護者や子どもに注意を呼びかけを行った。保護者の協力もあり、無事何事もなく工事が終了。 ・保護者へ園児の抜け出しや、登降園時の飛び出し等に対する安全対策も含めて、必ず 2 ヲ所の施錠をより一層、確実に行っていただくよう呼びかけを継続して行っていく。
<p>食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・菜園で栽培した野菜を使ったクッキングや給食のご飯でおにぎり作り、おやつの手作りピザのトッピング等、いろんな形で食材に触れる経験を重ねてきた。クッキングの体験を通して、友達と食べる事の楽しさや共感できる喜びを感じて欲しい。食育について計画的な取り組みを考えていく。
<p>子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、行事の保護者参加の人数制限を緩和したり、クラス懇談等が実施できる状況になり、保護者とのコミュニケーションが取りやすくなってきている。丁寧にかかわり、関係を深めていきたい。 ・地域の親子がサークル「ぴよぴよ」「わんわん」に多く集うようになり、その中で保護者同士で知り合いになるケースも増えてきているように感じる。出会いの場としても、支援センターが拠点となり、地域の親子同士が、つながっていける場として機能していけるようにしていきたい。
<p>教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<p>園内研究で「友達や大人の関わりが豊かになる環境作り」をテーマに今年度も引き続き、手作りおもちゃ作成や保育室のコーナーの充実に取り組んだ。たくさんのおもちゃを通して友達とのやり取りが増え、関係が深まった。幼児クラスでは、コロナ禍でできなかった縦割り保育を再開し、異年齢交流ならではの関係を深めることができた。また、第十八中学校や螢池小学校との交流が少しずつ再開され、異年齢交流から得る成長も感じられた。継続して行っていきたい。</p>
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ違う個性を持った子ども達が安心して過ごせる居場所としてこども園があり、違いがある中でどうやって共に過ごすのか、子どもも大人も考える機会が持てるよう活動をしてきた。 ・今後も、一人一人が自分の持ち味を活かして、クラスの中でかけがえのない存在となる事を目指す取り組みをしていきたい。

<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」に参加協力 3 年目となり、乳幼児期の教育保育が重要な役割を果たすことについて継続して学びを深めることができた。 ・園内研究でのサブテーマを「友達や大人との関わりが豊かになる環境づくり」とし、講師を招いて人的環境としての職員の在り方について考える機会を持ち、継続して環境づくりの取り組みを進めている。 ・全職員が情報セキュリティ研修を受け、職員一人一人の情報セキュリティ意識を向上させ、事故等を防ぐ。
<p>幼保こ小中の連携</p>	<p>第十八中学校区「子育て・ふれあいの会」に参加。関連機関と定期的に情報交換の機会を密に持ち連携していく。</p> <p>“地域の子ども達を地域で育てる” “子ども達が信頼できる大人に出会える” 地域の取り組みを進めてきた。引き続き、連携の重要性を確認し合いながら進めていく。</p>
<p>関係者評価の取り組み</p>	<p>評議委員会を開催。1 回目には今年度のこども園の課題や目標について報告し、2 回目は、2 歳児の公開保育を行い、意見交換をした。</p> <p>総括として、書面において今年度の取り組みのまとめを行い、子ども達が信頼できる大人に出会い、安心して過ごせる地域を目指して共に取り組んでいく事を確認し合った。併せて、こども園の取り組みについて継続してアドバイスを受け、教育保育に活かしていく。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達保育実践政策学センター「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」に保護者の同意の元、共に継続して参加。職員の意識を高めていき、質の向上に取り組んでいく。 ・児童発達支援センターの「言葉の講座」を本園で開催し、螢池地域の保護者の参加を呼びかけた。引き続き、児童発達支援センターとも連携し、地域支援に取り組んでいく。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>教育保育内容の充実と工夫 取り組みの保護者へのアピール</p>	<p>この数年、行事の在り方や取り組みの形が変わってきているが、今後も社会の動きに合わせて変化させていきながら、保育環境システムのコードモンを使った発信の取り組みや、その他保護者に伝える工夫に努める。</p>
<p>地域との連携</p>	<p>十八中校区・螢池校区で育つこども達が通うこども園として、地域団体や自治会等と連携し“地域の子ども達を地域で育てる” “子ども達が信頼できる大人と出会える” 地域を目指し、人権教育・保育に引き続き取り組む。</p>

令和 5 年（2023 年）3 月 31 日

豊中市立螢池こども園

園長名 藤村 昭美